

令和2年度学校評価報告

04

下高井農林高等学校

評価項目		項	自己評価	学校関係者評価	評価点	次年度に向けた改善策
進路指導	計画的な進路指導とキャリア教育	1	3年間の計画的な進路講話や、地域の産業（農業含む）を学び将来の進路を考えるための研修など、計画的に実施することができた。しかし、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で研修が実施することができない状況にあったが、オンライン企業説明会を実施し、それなりの成果を得ることができた。	コロナ禍での新たな対応に奔走され、生徒の将来を考え、計画的に進路指導をされた結果が、進路実績として表れたと思う。今後は企業訪問や研修等の実施は難しいと思うが、新たな対応の検討をいただきたい。	4.6	次年度も、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮した計画的な指導が求められる。特に、本校の特徴でもある、地元企業や農家での研修は影響が心配される。今年度同様に、オンラインを活用した情報提供など進路実現に繋がるような企画を提案し指導にあたりたい。
	進路先の開拓	2	例年同様、生徒の希望を優先しながら指導を進めた。生徒・保護者との面談を重ねる中で、必要に応じて就職を希望する企業等の開拓を行った。	地元企業を中心に、生徒の希望を幅広く叶える進路先の開拓をしていただいている。今後は、起業（農業自営を含む）を視野に入れた指導を検討いただきたい。	4.4	新型コロナウイルス感染症が求人数にどのような影響を及ぼすのか心配される。企業との情報交換を密にしながら事前の対応を考えていきたい。
	進路情報の提供と進路相談の充実	3	入学時より計画的に個人面談を行い、情報提供をしながら進路指導を行っている。特に、コロナの影響もあり、採用人数・面接の方法（対面またはオンライン）等の情報収集の必要性を強く感じた。	旧来より、多くの企業に関する情報を、進路面談等を通じて提供いただいている。今後は時代に即した（オンライン面接等）進路指導をお願いしたい。	4.0	個人面談や進路講話を入学時より計画的に行うことにより、生徒の進路実現に向けての意識を高めていきたい。
授業展開	興味・関心を高める授業	1	I C T機器の導入を契機に、同機器を使った「主体的で対話的な学び」への授業転換を一層図るため、定期的に職員研修会や研究授業等を行い、生徒の興味・関心を高める授業展開を図った。	本校の強みである実習での技術の習得と、ICTを活用して生徒の主体的な学びを一層引き出して欲しい。	4.2	実験や実習等においてもICTを積極的に使い、調べ学習や記録を充実させ、生徒の主体的な学びを一層引き出すようにする。
	専門学習・資格取得	2	専門学習の充実が課題研究の成果として現れている。資格取得ではコロナ対策を実施し、計画的に展開ができた。のべ300人以上の生徒が資格を取得した。	資格取得と専門学習の充実は、本校の胆の一つであるため、今後も指導の充実を図って欲しい。	4.8	「習得・活用・探究」のバランスを工夫し、教育成果が最大限に発揮できる授業展開や資格取得教育について検討する。また、広い視点からの体系的な学習の確立により、専門学習の一層の充実を図る。
生徒指導	基本的生活習慣、きまり、マナー	1	基本的生活習慣の確立、安全意識の向上、授業規律の確立のため指導している。ほとんどの生徒はルールを守り規律正しい生活を心がけている。生徒会と連携し、挨拶励行、身だしなみ、時間厳守、規範意識・人権意識の向上に取り組んだ。生徒も自主自律的に取り組んでいる。	女子生徒の健康維持の観点から、冬期間はスラックスの着用義務化について、検討されてはいかかが。	4.0	・冬期の服装は校内で検討し、スラックスの着用を生徒に呼びかけるとともにPTA新聞等で保護者にもお願いした。義務化については、保護者の意見も聞きながら広く関係する部門と協議する。 ・今後も、基本的生活習慣・授業規律の確立、規範・安全・人権に関する意識の向上を日々指導していく。
	保護者との連携	2	PTA新聞、長期休みの前の配布物等でしか、本校の取り組みと現状を知らせることができなかった。反省指導等で直接伝える場面では、本校の指導方針にご理解をいただけたものと考えている。	コロナ禍でPTAの諸会議等を開催できず、苦労されたと思うが、オクレンジャー等を使い細目に情報を発信されたことが、保護者アンケートでの高評価につながったと思う。次年度も継続いただきたい。	3.8	感染症拡大防止策を講じながら、PTAの諸会議等を開催し、学校の指導方針や取組みを説明するとともに、オクレンジャーでの情報発信も併用し、保護者の方々との連携の充実を図っていく。

健康安全指導	安全教育	1	・コロナ禍において、命・健康を重点に従来の決まりの見直し、授業中の水分補給や防寒着の着用について見直した。 ・新入生を行う外部講師による体験型自転車安全教室はビデオ学習になってしまった。(以上、生徒指導係) ・GAP学習を通して、圃場の危険箇所の改善や注意喚起の掲示など、作業者の労働安全についても取り組み、農業生産工程管理について理解を深めることができた。(農場) ・実験での安全面に加え、コロナ禍の健康面において換気や消毒を徹底した。班分けは少ない人数にし、密を避けるように実施した。(理科)	・時代や環境の変化に対応していくことは大変なことです、その変化に対応すること自体が安全教育の1つではないか。コロナ対応での指導も、安全対策の1つだと思う。 ・GAP教育は今後も重要度が増していくと想定される。主体的な学びを一層充実させ、卒業後も習得したことを活かしていけるよう、指導の継続をいただきたい。	4.3	・交通安全教室や交通安全運動の実施に加え、定期的に安全意識の向上に繋がる情報発信を行う。(生徒指導係) ・次年度も、新型コロナウイルスへの感染防止策を講じて実験を行う必要がある。ICT機材を用いて効率化を図り、生徒同士の接触の機会を減らすよう指導していく。(理科) ・今後もGAP教育を継続することにより、生産に関わるリスク管理の重要性と必要性について、生徒自身が理解を深められる授業を行う。(農場)
	健康意識の向上	2	新型コロナウイルス感染予防10ヶ条を作成するなどして意識の向上を図り、その実践に結びつけた。また、学校全体が一丸となって感染しにくい環境の整備やアルコール消毒等に取り組んだ。	感染症対策は不自由を感じるが、全校で統一して取り組むことで、意識の向上を図ることができたと考える。	4.8	次年度も感染症予防対策の徹底が図れるよう、情報の発信により一層取り組む。
教育支援体制	生徒相談の支援体制	1	学年会での生徒状況を教育相談係会及び、職員会で報告した。更に、月に1回のスクリーニング会議を実施し、外部の専門家を交え、生徒状況報告から生徒支援を深めている。カウンセリングも希望者対象に月に1回を定例とし、緊急時はその都度、行っている。	支援を必要とする生徒は必ずおり、生徒個々の状況に応じた支援は大変かと思うが、今後もきめ細やかな対応をお願いしたい。	4.3	次年度も月に1回、外部の専門家を交えたスクリーニング会議を実施し、生徒支援体制の充実を図る。また、入学式に保護者に対してカウンセリングについて説明し、活用の促進を図る。
	職員研修、支援計画の作成・実施	2	年2回の特別支援職員研修を行っている。今年度はアセス(学校適応感尺度)の導入に合わせ、紹介から考察までを研修会で扱うなど、教育支援体制の一層の充実を図った。	生徒のために新しいことを導入されており、評価できる。今後も継続いただきたい。	4.4	次年度も特別支援教員研修を行い、アセスの活用を深める中で、教育支援の一層の充実を図っていく。
生徒会	生徒会活動の充実	1	コロナ禍で活動が制限される中、生徒会執行部を中心に、文化祭等においてどのような対策を講ずれば活動が可能なのかを検討した。その過程で生徒が一丸となって活動の充実を図り、その結果、多くの2年生が生徒会役員選挙に立候補することにつながった。	2年生の対応から、コロナ禍に遭っても生徒会等の活動が充実していたことがわかる。コロナに負けず、今後も積極的な生徒を育てていただきたい。	4.2	コロナ禍が今後も続くことが予想され、感染症対策を講じながらどのような企画が可能か生徒に考えさせ、その中で個々の自主性・積極性を伸ばしていく。
	農業クラブ活動の活性化	2	コロナ禍の中、オンラインで交流を実施するなど新たな取り組みにより、活動の活性化を促進することともに、生徒の成長を実感することができた。	コロナ禍においても感染症対策を講じ、新たな取り組みを始め、生徒の成長につながったと思う。今後も社会状況への生徒の対応能力を向上させられるよう、指導の継続をいただきたい。	4.4	生徒が様々な場面において、自分たちの活動について自信を持って発表できるように指導を継続していく。

開 か れ た 学 校 づ く り	PTA、広報活動	1	・新型コロナウイルス感染拡大防止の中、PTA総会は書面開催、地区 PTA や研修会は中止とした。そのため、残念ながら例年のような家庭・保護者との連携を図ることができなかったが、オクレンジャー等を活用して保護者への連絡の徹底を図った。(PTA) ・本年度からホームページをスマホに対応した形式にリニューアルするとともに、Instagramに生徒の主体的な学びの様子を掲載するなど、幅広い年齢層に向けた情報発信に努めた。(広報)	・コロナ禍における P T A 活動の在り方については、引き続き検討いただきたい。また、オクレンジャーでのこまめな連絡は継続いただきたい。 ・InstagramやHP等における情報発信の充実は大変評価できる。しかし、地域でInstagramでの情報発信を知らない人も多く、口コミ等で協力したい。	4. 0	・PTA活動の在り方やPTA行事の内容を見直し、出席率の向上を図り、充実した行事としていきたい。(PTA係) ・農場実習や学校行事だけでなく、特に中学生が興味関心を持つと思われる情報は何かを調べ、Instagram等にUPする。(広報)
	地域連携と地域貢献の推進	2	コロナ禍で規制の多い中、綿密な感染症対策を講じて道の駅「ファームス木島平」で農林市を開催するなど、地域に開かれた新たな取り組みを実践することができた。	課題研究発表会等において地域貢献に対する取り組みを見て、十分に評価できるし、地域は農林生の活躍を楽しみにしていると思う。今後の活躍を期待している。	4. 4	今後も地域を学びのフィールドとして、積極的に地域と関わりながら地域の課題を知り、その課題に取り組める体制を構築する。